



富山ガラス造形研究所
Toyama Institute of Glass Art

〒930-0143
富山県富山市西金屋 80 番地
TEL 076-436-2973
FAX 076-436-2974
e-mail: tigainfo@toyamaglass.ac.jp



<https://toyamaglass.ac.jp>

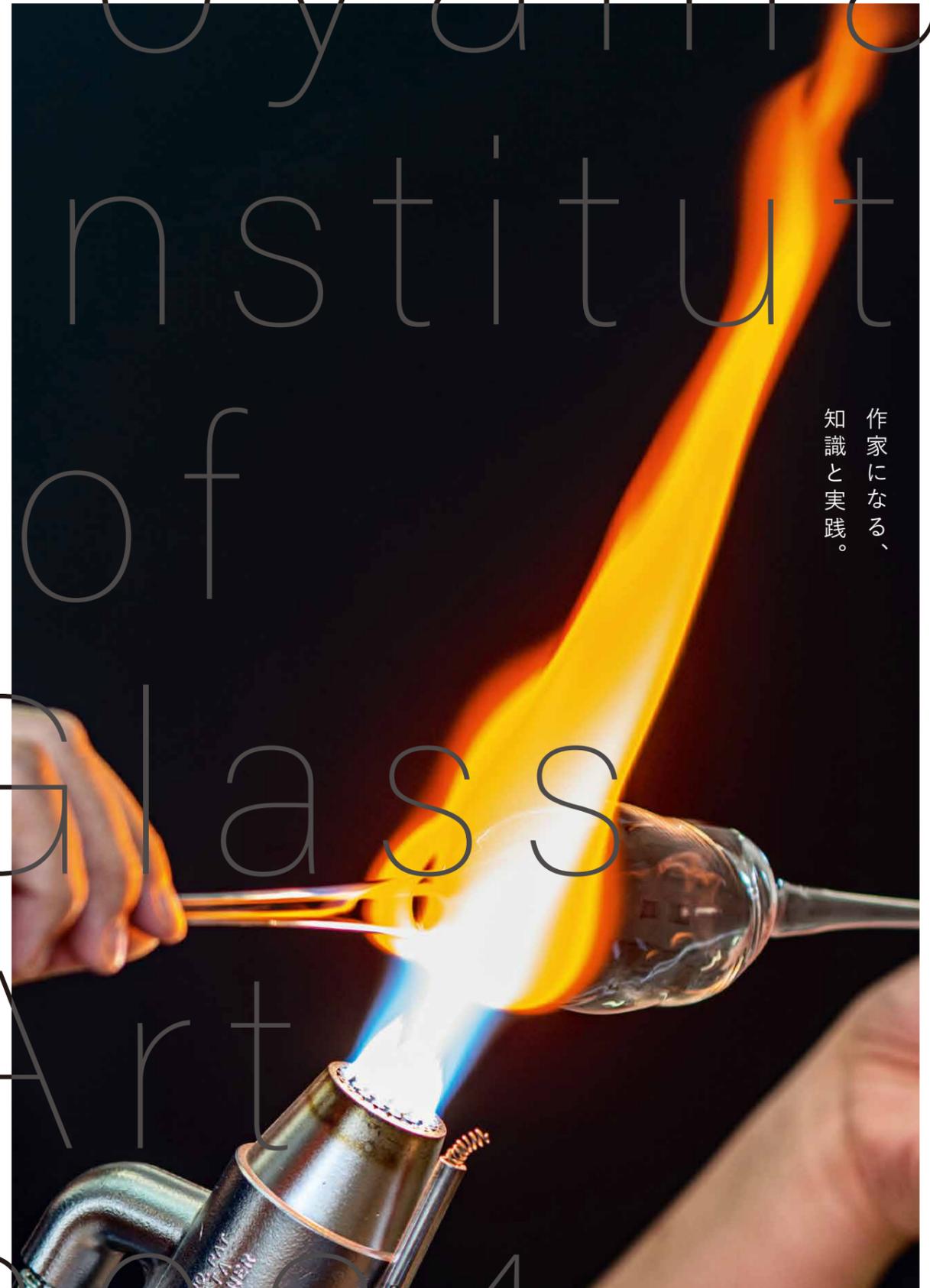


Instagram
tiga_glass



YouTube
toyamainstituteofglassart7418

Toyama Institute of Glass Art 2024



作家になる、
知識と実践。

富山ガラス造形研究所



日本屈指の充実した環境で学ぶ

所長 恒川 哲二



本研究所は、プロのガラス造形作家の育成を目的として1991年に設立され、今年で34年目を迎えています。この学校の特徴は、指導する教授陣が充実していること、設備が整った環境の中で、ガラスの専門教育を学べること、2名の外国人教師による指導や著名な海外作家によるワークショップ、交換留学制度など海外との交流が盛んであること、さらに様々な分野の講師による特別講義など、常に学生に刺激を与えられるようカリキュラムを充実させてきました。600名余りの卒業生の多くは、プロのガラス作家として国内のみならず海外でも活躍しており、教員や卒業生はもとより、在学中の学生達も国際ガラス展や公募展などで数多くの受賞実績があります。

富山市では、「ガラスの街とやま」をまちづくりの柱のひとつとして掲げ、約40年をかけてガラス芸術の振興に関する数々の施策を展開し、本研究所や富山ガラス工房、アーティストハウスの整備を行い、さらに

2015年にはガラスの街づくりの集大成として、富山市ガラス美術館が開設され、ガラスの街にふさわしい環境ができており、現在、「ガラスを総合的・専門的に学ぶなら富山で」と、海外留学生を含め42名が学んでいます。

2025年度には、プロのガラス造形作家を目指す皆さんの進学先として選んでいただけるよう、これまでの教育活動の成果を踏まえ、造形科及び研究科のカリキュラムを大幅に改編します。その大きな柱として、造形科1年次のフレームワーク[※]の必修科目化をはじめ、卒業後の作家としての自立に向けた選択肢の多様化と感性や技術の向上を目指したより実践的な授業を、両学科でスタートさせます。学生の皆さんが、ガラス造形の専門的知識や技能を習得し、充実した学生生活を送ることができるよう、私たち教職員一同、全力でサポートします。本気でガラス作家を目指す、意欲あふれる皆さんの入学を期待します。

※ フレームワークはバーナーワークとも称され、国内外で今後の発展が期待できる技法・分野のこと。

2025年度から新たなカリキュラムをスタート

主任教授 本郷 仁



日本初かつ唯一の公立ガラスアートの専門教育機関、それが富山ガラス造形研究所です。ここでは、2年間のカリキュラムを通じて、各種ガラス制作技法の習得や素材を活かした造形表現の学習、さらにはガラスの新たな可能性を研究するという、非常に充実した専門教育を提供してきました。このたび、造形科・研究科ともに授業内容をさらに充実させ、より高度で専門的な学習の場となるために、2025年度から新たなカリキュラムをスタートします。造形科では、これまで選択科目であったバーナーワークを学習科目「フレームワーク」として必修科目にします。また美術の基礎を学ぶ「基礎造形(平面・立体)」に加え、素材や表現方法について実践的に学ぶ「造形演習」を新設します。研究科では、各自のテーマで研究制作を進めながら、さらに作家として自立するために必要な制作方法の確立と作品意図を的確に言語化する力を身につけるために、様々な分野から講師を招き特別授業を行いま

す。また、富山ガラス工房、富山市ガラス美術館との連携授業など、富山で学ぶことの利点を生かし、より実践的で多様な学習の機会を設けてまいります。

研究所へ入学してくる学生達は、皆それぞれの夢を抱いて全国から集まり、ここで2年間学んだ後にそれぞれの道へ進みます。高度な手を持つ工芸作家を目指す者、ガラスを素材とする造形作家を志す者、日常生活を彩る器を制作する者、建築やインテリアなどの空間をデザインする者など、その進路は実に多彩ですが、卒業生達は当研究所で過ごした時間を夢の礎として、国内外の様々な分野で活躍しています。こうした卒業生の活動は研究所の財産であり、研究所の今を支えているのです。

日々変わりゆく今この時代に、自分たちの未来をガラスに託し、それぞれの夢を追い求める当研究所の学生達。私たち教職員一同は、その学生一人ひとりの夢が実現するよう応援してまいります。



造形科

デッサン・デザイン等の基礎の造形教育を重視し、ガラス造形に必要な基礎的な理論及び技法を学習します。個性・創造性を伸ばすことを主眼に、選択科目の中で自主的な制作を通して多彩な表現力や造形力を養います。

造形科1年生の授業

ホットワーク I | HOTWORK I

ホットワークに必要な基本的な技術を学びます。竿の持ち方から、どのように溶けたガラスを巻いて成形していくか、また共同制作を通じて、技術の習得と向上に取り組みます。さらに課題を通して個々のアイデアを反映していきます。

フレームワーク I | FRAMEWORK I

ソリッドワーク、ストリンガーワーク(ケーンワーク)、管ガラスブローなど基本的な技術と機材の知識を習得します。色ガラスや酸化・還元炎による色の変化、他技法の併用についても学ぶことで、素材に対する理解度と探求心を深めていきます。

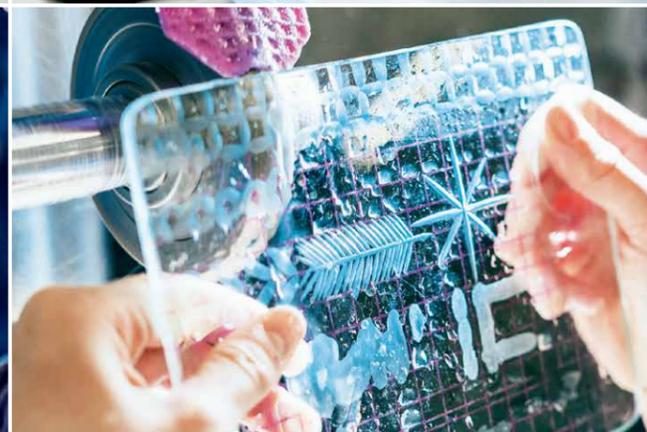
キルンワーク I | KILNWORK I

キルンワークとは電気炉でガラスを成形する作業のことを言います。キャストイング、パート・ド・ヴェール、フュージング、スランピングなど、キルンワークの基本的な技法を習得しながら、素材としてのガラスを学ぶことになります。後半では、前期に学んだ素材や技術をベースに、キルンでの新たな表現手法を探し始めます。

コールドワーク I | COLDWORK I

研磨やカット、サンドブラストや接着などコールドワークの基礎技術について幅広く学んでいきます。担当教員と話し合いを重ねながら、与えられたテーマについて深く考え、コンセプトを作り、コールドクラスや他の教科で習得した技術を組み合わせ、制作を進めていきます。

基礎的な
造形力を養う



造形科2年生の授業

ホットワークⅡ | HOTWORKⅡ

ホットワークの基礎的な技術をさらに高め、実験的な作品制作を行うなど、それぞれの興味や関心に応じてアイデアを発展させ、新しい発見を促すことを目的に課題を組み立てていきます。また作品展示のためのサイズ感や最終形も踏まえたスケジュールを意識していきます。さらにリサーチを通して見識を広めていきます。

フレームワークⅡ | FRAMEWORKⅡ

一年次で学んだことをベースにリサーチや実験、ディスカッションを重ねていきます。対話を通して作品の出力の幅を広げる方法を模索し、オリジナリティの確立を目指します。卒業後の活動を見据え、展示方法の再考や一歩踏み込んだ機材知識の習得も促します。

※二年次はホットワークまたはフレームワークのどちらかを選択することになります。

キルンワークⅡ | KILNWORKⅡ

初年度で学んだキルンワークの技法やガラスの特質をもとに、自作品のオリジナリティを追求していきます。半期の研究のほか、グループディスカッションやアーティスト・ステイトメントなどを通して、様々な角度からガラスの作品化を目指します。最終的に、研究発表として学外での展示を行います。

コールドワークⅡ | COLDWORKⅡ

ウォーターサンダーや独自のツールを使用した共摺りなどの応用技術を学び、様々な表面加工を習得、また酸洗い加工による表現の違いも学習します。各自のテーマに沿って好みの技法を用いて制作していきながら、学外でのコールドクラス展へ向けて、より専門的な技術とコンセプトを深めた作品制作を目標とします。

※二年次はキルンワークまたはコールドワークのどちらかを選択することになります。

身につける
多彩な表現力を



造形科2年間の中で修得する科目

基礎造形 | FOUNDATION

一年次前期の授業で、平面作品と立体作品についての基礎的な知識と技術を習得します。ガラス以外の様々な素材に触れながら、演習課題を通して「観察力」「構成力」「想像力」を養います。

造形演習 | ART PRACTICE

二年次前期の授業で、作品制作に関することについて総合的に学びます。素材を知ること、ものを作ることから始まり、制作アイデアの展開や作品の展示方法など、制作に関する様々な要素について実践的に学習します。

ガラス材料学 | GLASS MATERIALS

材料学研究の視点から物質としてのガラスを学びます。「ガラスとは何か」という分子構造の疑問から建材や工業製品のガラスに至るまで、最古の人工素材と言われるガラスの特性と魅力に対し科学的に迫ります。

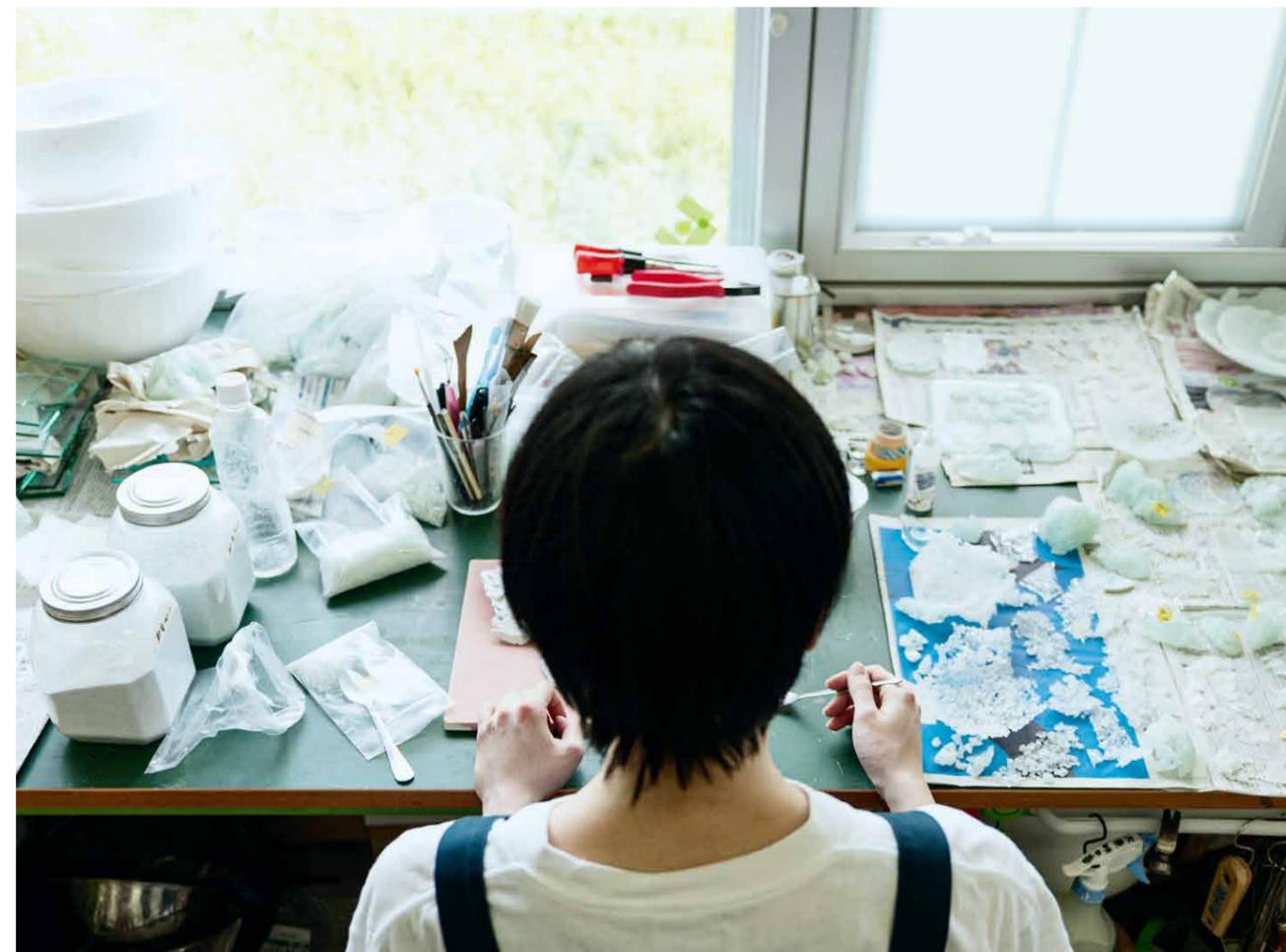
※隔年の開講になります。

ガラス工芸史 | HISTORY OF GLASS ART

ガラスの起源から現代ガラスまで、幅広くガラスの歴史を学びます。時代を切り開く斬新な発想や、それを支える技術の展開をたどり、現代の作り手に繋がる制作の歴史的背景について考察します。

※隔年の開講になります。





研究科

学生の研究発表をもとに、定期的な全教員とのディスカッションと、渋谷良治制作アドバイザーによる個別指導を行い、各自の研究と制作をサポートします。さらに、プロとしてのオリジナリティの確立とプレゼンテーション能力の向上を目指し、さまざまな分野の講師（2025年度は現代美術作家の宮永愛子氏と文化研究者の山本浩貴氏）による特別授業を年に4回行います。

作家としての
オリジナリティの確立

研究科の授業

研究制作 I・II | RESEARCH I・II

一年次は、担当教員の指導、助言を得ながら各自研究テーマを設定し、立案した研究計画に基づいて制作します。5名の教授陣による作品講評を定期的に行い、アイデアの展開と表現力の向上を図ります。

修了制作 I・II | GRADUATION WORK I・II

二年次には作品のオリジナリティをより深め、修了制作へと進んでいきます。学生1名に対して1名の教員がチューターとして常に指導を行い、その担当教員を中心に教授陣が作品のアイデアから技術的な面までサポートをします。



全学共通の学びと制度



鈴木康広氏によるワークショップ



袴田京太郎氏による特別講義



令和5年度卒業制作展講評会

各分野の
現役アーティストから学ぶ

ワークショップ | WORKSHOPS

年2回、国内外の著名なアーティストと制作する一週間

幅広い視野とグローバルな技術や考え方を身につけるために、国内外で活躍している著名作家を招聘して、春と秋に1週間のワークショップを行っています。ガラスに限らず多様な分野で活躍している作家と触れられる、貴重な機会になっています。

令和5年度 ワークショップ講師
鈴木 康広 (アーティスト)
Bohyun Yoon (ガラス作家)

特別講義 | SPECIAL LECTURES

様々な分野のアーティストによる特別講義

見聞を深める目的で開講する特別講義は、現代アート、建築、彫刻、デザイン、陶芸等、ガラス以外にも様々な分野で活躍されている方を招き、2時間程のスライドレクチャーを行っています。通常の授業では補うことのできないガラスの各種技法や、新しい表現方法、当研究所の卒業生の活動等も、この講義を通して紹介します。

令和5年度 特別講義講師
アンナ=マリア・ウィルヤネン (フィンランドセンター所長)
内田 鋼一 (陶芸家)
岡村 喜知郎 (写真家)
小島 有香子 (ガラス作家)
袴田 京太郎 (現代美術家)
ヴェンドゥルカ・ブラハロヴァー (ガラス作家)

講評会 | CRITIQUES

特別講師を招いて真剣な講評会

前期と後期の締め括り、そして卒業制作展の講評会に、当研究所5名の教授陣の他、外部より特別講師を招き、講評をしていただきます。この講評会では、いろいろな意見をいただき、次の作品制作に向けての指標にしていきます。

令和5年度 講評会講師
以倉 新 (富山県美術館 学芸課主幹)
伊藤 真知子 (ガラス作家)
井上 雅之 (陶芸家)
武田 厚 (美術評論家、富山ガラス造形研究所顧問)
多田 えり佳 (玉川大学非常勤講師、ガラス作家)
中島 春香 (富山ガラス美術館 主任学芸員)
宮永 愛子 (美術家)

アーティスト・イン・レジデンス

| ARTIST IN RESIDENCE

国内外で活動するガラス作家の中から、毎年1名の滞在作家が選出され、その作家は約1ヶ月半富山に滞在し作品を制作します。期間中、公開講座や学生を対象とした講義や実演を行いながら、地域や学生との交流を図ります。期間終了時には富山市ガラス美術館で成果発表を行います。富山の自然豊かな環境の中で制作に取り組む事ができ、その成果は滞在期間終了後も作品を通して残っていきます。



ヴェンドゥルカ・ブラハロヴァー氏によるアーティスト・イン・レジデンス

卒業制作展 | GRADUATION EXHIBITION

平成27年度より、卒業制作展を富山市ガラス美術館で行なっています。学生は、2年間の集大成として、ガラス作品を展示します。毎年、展示作品の中から優秀賞や特別審査員賞などが与えられます。令和元年度からは、卒業制作展記念講演会を開催し、昨年度は、美術評論家、富山ガラス造形研究所顧問の武田厚氏、美術家の宮永愛子氏を招き、講評会と特別レクチャーを行いました。9日間の展示期間に6,331名の方が来場されました。

校外学習 | FIELD TRIPS

それぞれの学年やクラスで、その専門分野の展示会や工房などを見学します。

学外展示授業 | EXHIBITIONS

授業の一環として、学生主体で展示会の企画から展示作業までを学びます。この経験が、卒業後の作家活動の手助けになります。

地域連携授業 | REGIONAL ACTIVITIES

平成30年度に、スタジオジブリと富山ガラス造形研究所の学生や教員が、富山市ガラス美術館展示会「ジブリの大博覧会」のガラス作品(灯籠)を共同で制作しました。

研究生制度 | VISITING SCHOLAR PROGRAM

リサーチ・スタディー(研究生)は1年、6ヶ月、3ヶ月の中から期間を選択し、ガラス制作の研究を行うことができます。出願資格は富山ガラス造形研究所研究科を卒業した方、またはこれと同等でガラス作家として2年以上の経験を有する方になります。

※年度によっては募集していないこともあります。

交換留学制度 | OVERSEAS EXCHANGE PROGRAM

提携大学の協力により、交換留学制度を設けています。選ばれた学生は、約3ヶ月間、海外でガラスを学ぶことができます。

※年度によっては募集していないこともあります。

連携大学	オーストラリア国立大学 (オーストラリア) ブラハ美術建築デザイン大学 (チェコ) ヘリットリートフェルト大学 (オランダ) リベツ工科大学 (チェコ)
------	---

海外研修助成金 | SCHOLARSHIPS

海外では、数多くの短期ワークショップが毎年開催されます。学生は、夏休みを活用してそのワークショップに参加することができます。選ばれた学生は、提携校から助成金を得て、海外でガラスを学ぶことも可能です。

提携機関	アーバングラス (アメリカ) コーニングガラス美術館 (アメリカ) ビルチャックガラス学校 (アメリカ) ヘイスタックマウンテン工芸学校 (アメリカ)
------	--



教員

富山ガラス造形研究所は、42名の学生に対して、
常時2名の外国人教師を含む5名の経験豊富で国際性豊かな専任教授陣と
8名の非常勤講師、そして制作アドバイザーが指導を行っています。
また、それぞれの教員は作家としても活動し、国内外で活躍しています。
学生は、その指導やアドバイスを受けると同時に、
制作過程なども身近に見て勉強ができる環境が整っています。

海外講師を交えた
各ジャンルのプロフェッショナルが指導



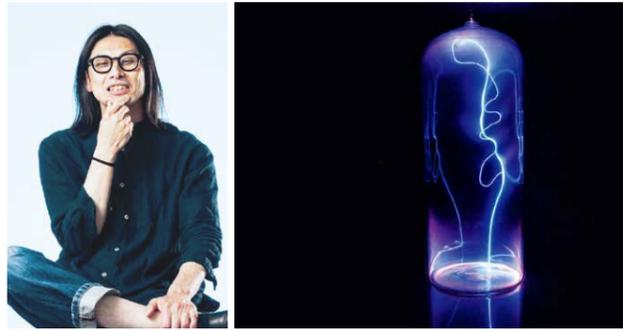
主任教授 本郷 仁 *Jin Hongo*
1987 東北大学工学部金属加工学科卒業
1990 東京ガラス工芸研究所研究科卒業

融る境界



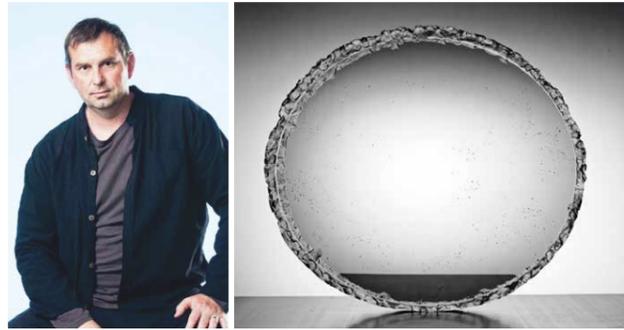
主任教授 中神 牧子 *Makiko Nakagami*
担当：ホットワーク
1994 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業
1999 金沢卯辰山工芸工房研修者修了

クシヤクシヤガラス



教授 松藤 孝一 *Koichi Matsufuji*
担当：キルンワーク
1995 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業
2001 イリノイ州立大学美術学部修士課程修了(アメリカ)

祈りの夜



准教授 イーリ・スヒー *Jiri Suchy*
担当：コールドワーク
1991 High Glass School, Nový Bor (チェコ)
2000 MgA. Academy of Arts, Architecture and Design, Prague (チェコ)

Being



准教授 デイラン・パルマー *Dylan Palmer*
担当：ホットワーク
2000 Bachelor of Fine Arts, Illinois State University (アメリカ)
2005 Master of Fine Arts, Rhode Island School of Design (アメリカ)

Mostly Upright

顧問
武田 厚
(美術評論家、多摩美術大学客員教授)

制作アドバイザー
渋谷 良治
(ガラス造形作家、富山市ガラス美術館顧問)

助手

常時5名の助手が担当の授業で学生の制作をサポートし、
学生により近い目線で授業の指導も行っています。
それぞれの助手が作家として、国内外で活動しており、
若手作家として世界に羽ばたいています。
学生は、卒業後の活動を身近に知ることができます。



天笠 夏美 *Natsumi Amagasa*
担当：コールドワーク
2009 ロンドン芸術大学チェルシーカレッジファウンデーションコース卒業(イギリス)
2018 サンダーランド大学ガラス工芸科卒業(イギリス)

願い葉



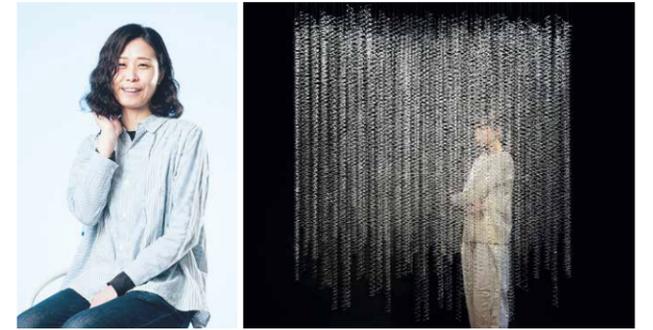
木村 珠里 *Juri Kimura*
担当：キルンワーク
2018 富山ガラス造形研究所研究科修了
2022 金沢卯辰山工芸工房研修者修了

200万年後より 001



橋本 亜紗 *Asa Hashimoto*
担当：通訳、アーティスト・イン・レジデンス事業
2001 パーソンスクールオブデザインファインアート科卒業(アメリカ)
2018 富山ガラス造形研究所造形科卒業

The square days



廣瀬 絵美 *Emi Hirose*
担当：ホットワーク
2013 富山ガラス造形研究所造形科卒業
2022 金沢卯辰山工芸工房研修者修了

in between



吉積 彩乃 *Ayano Yoshizumi*
担当：ホットワーク
2014 武蔵野美術大学卒業
2016 富山ガラス造形研究所造形科卒業

ICON #2010 Group

| 学生の声 |

研究科2年生
 ジョセリン・チャン
 Jocelyn Chan



記憶の旋律

| 国際的な学びの環境が不安を払拭

入学したきっかけは

私が初めて吹きガラスを学んだのは、アメリカのウィスコンシン大学マディソン校で美術を専攻していた学部生のときでした。当時はガラスという素材を使ったコンセプチュアルな作品を多く作っていました。自分のコンセプチュアルな作品に、より多くのデザインやテクニックを組み合わせるために、ガラス制作の技術力を向上させたいと考え、富山ガラス造形研究所を選びました。富山にはとてもユニークなガラス工芸の文化があり、多くのことを学べると思ったからです。研究所について調べてみると、多くの人が本当に良いコメントをくれました。また、研究所でワークショップを開催したことのある大学の教授も、進学を薦めてくれました。

研究所に入って

研究所の先生方は、私たちが自分の作品について多様な視点から考えるよう、後押ししてくれます。生徒一人一人の長所、短所、情熱に基づき、生徒の作品やコンセプトについて本当に有益なアドバイスをくれます。また、私は日本語が母国語ではないので、日本語でのコミュニケーションに不安を感じるがよくあります。しかし幸いなことに、学校は常に国際的な講師やアーティストを招き、ワークショップやレジデンスを開催しており、国内外を問わず、研究所が提供してくれるさまざまな機会は、生徒の視野を広げてくれます。クラスメイトや先輩もとても親切で助けてくれますし、本当に親しい友人がたくさんできました。

将来の夢

私の夢は、ガラスとアートの知識を持って世界を探索し続けることです。もっと多くのものを見て、知識を広げたい。いつかは自分のブランドを作り、自分のスタジオを開き、プロフェッショナルな作品を作り、成功したガラスアーティストになりたいと思っています。研究所を卒業した後の私の計画は、ヨーロッパの大学院に入学することです。

| 忘れられない同級生と作品を作り上げたときの感動

私は小さい頃から手を動かしてものづくりをしたり、ものづくりをしている人や工程を見ることが好きでした。その中でもテレビ番組で吹きガラスの職人さんを見た時の感情は忘れられません。「すごい、なんてかっこいいんだ。」と衝撃を受けました。それからガラスに興味を持ち、小さい頃の私は将来ガラス職人になりたいと思うようになりました。中学、高校とガラスには関係のない学校に進みましたが、高校3年生の時にこれからのことを改めて考えた時に、小さい頃のガラス職人になりたいという気持ちが今もあり、富山ガラス造形研究所へ進学することを決めました。研究所での2年間はとても忙しい日々でした。課題も多く、講評会が終わると次の講評会に向けて考え、制作に取り組むという毎日でした。その中で新たなガラスの魅力を発見したり、同級生と切磋琢磨し作品を作り上げたときの感動は忘れられません。29期生のあのメンバーで2年間を過ごすことができ本当に良かったなと思います。

初めは吹きガラスしか知らず、吹きガラス一択だった私でしたが、多くのガラスの技法を学ぶ中で特にキルンワークとバーナーワークに興味を持ちました。卒業後は福島県南相馬市にあるアトリエiriser (イリゼ) というガラスアクセサリブランドでバーナーワークの職人として制作をしています。同じく29期の平 鑑茹 (pinちゃん) と今は一緒に仕事をしています。バーナーワークの技術を磨く以外にも商品になるまでの流れを学ぶことができたり、工房をレンタルすることが可能なので休日は個人の作品を制作したりもしています。

経歴

2000年 新潟県生まれ
 2021年 富山ガラス造形研究所 造形科卒業
 2021年～現在 福島県南相馬市にあるアトリエiriser に就職
 個人で作家としても活動中

| 卒業生の声 |



2021年造形科卒業
 清田 翔衣
 Ui Seida



| 卒業後の進路 |

富山ガラス造形研究所は、全国で初めての公立のガラス造形教育機関として平成3年4月に開校しました。これまで送り出した多くの学生は、ガラス造形作家として市内はもとより国内外で活躍し、我が国のガラス芸術の発展に寄与しています。令和5年度卒業生の進路は、造形科から研究科に進学3名のほか、金沢卯辰山工芸工房研修者1名、多摩美術大学副手1名、民間のガラス工房に就職6名、県内外で作家活動3名など、数多くの卒業生がガラス関係の道に進んでいます。

| 入学案内 |

設置学科

造形科 修業年限 2年 / 入学定員 16名

入学資格

高等学校卒業者及び卒業見込みの者、又はこれに準ずる学力があると認められる者。

研究科 修業年限 2年 / 入学定員 5名

入学資格

当研究所造形科を卒業した者、又はこれと同等以上の知識、技能を有すると認められる者。

(※美術系の大学を卒業した者など)

| 入学者の選抜方法 (令和6年度)

造形科 平面・立体実技試験 / 面接試験

※推薦入試はポートフォリオによる作品審査 / 面接試験

※日程など詳細は学生募集要項をご確認ください。

研究科 ポートフォリオによる作品審査 / 面接試験

※日程など詳細は学生募集要項をご確認ください。

| 授業料等 ※令和6年4月1日現在

入学審査料	18,000円
入学料	富山市内居住者：135,300円
	その他の者：169,200円
授業料	390,000円 (年額)

*奨学金制度 (日本学生支援機構等) あり

*授業料減免制度あり

*学生用アパートあり (詳細はお問い合わせください)

- 当研究所は、学校教育法第130条第2項の規定により認可を受けた富山市が設置した専修学校です。
- 学生募集要項や入学願書は、250円分の切手を貼付の上、住所・氏名を記入した角2号封筒を同封して本研究所へ請求してください。

| ガラスの街とやま

富山市は、ガラスの街づくりに取り組んでいます。詳しくは、富山市ホームページ内「ガラスの街とやま」をご覧ください。https://www.city.toyama.lg.jp/

富山ガラス工房

https://www.toyama-garasukobo.jp/

富山市ガラス美術館

https://toyama-glass-art-museum.jp/